

**Contact:** 広報担当:  
クライアント・コミュニケーション・サービス部  
マーケティングチーム  
Tel: 03-5411-3790  
E-mail: Tokyo-RIJ@russell.com  
**発信日:** 2010年7月9日

ラッセル・インベストメント株式会社  
東京都港区赤坂7-3-37 プラース・カナダ  
www.russell.com

## 『ラッセル・グローバル株インデックス』年次銘柄入れ替えで 6兆米ドル増加

年次銘柄入れ替えで、新たに1,190銘柄が構成銘柄に

ラッセル・インベストメント(本社:米国ワシントン州タコマ市)は、この度ラッセル・グローバル株インデックスの年次銘柄入れ替えを行い、その包括的株式ベンチマークに新たに1,190銘柄を組み入れました。世界61カ国の10,590銘柄で構成されるラッセル・グローバル株インデックスの時価総額は現在40兆8,000億米ドルで、2009年の銘柄入れ替え時の34兆8,000億米ドルに比べ17%増加しました。

また、銘柄入れ替え後のラッセル・グローバル株インデックスにおける構成銘柄の時価総額の範囲は2,831億米ドルから1億1,200万米ドル(前年の銘柄入れ替え時では、3,480億米ドルから7,800万米ドル)で、中央値は210億米ドル、前年の銘柄入れ替え時の205億米ドルに比べて上昇しました。

「昨年のインデックス銘柄入れ替え以来、市場は、概ね上向きながらも変動の激しい環境にさらされてきました。世界中のあらゆるセクター、あらゆる市場セグメントが現在どのような状況にあるかという新たな現実を捉えることが重要となっています」と、インデックス・ストラテジー・ディレクターの小原沢則之は述べています。「銘柄入れ替え後のラッセル・グローバル株インデックスを見ると、世界の景気回復度合いには、ばらつきがあり、特定の市場やセクターが景気後退に伴う株価の変動からより大きな影響を受けていることがわかります。」

ラッセル・グローバル株インデックスに今回新たに採用された銘柄数が最も多かった国は、米国が234銘柄でトップ、次に続いたのがカナダで110銘柄でした。カナダの株式市場は、グローバル・ベンチマークの中でも比較的時価総額の伸びが大きく、前年の銘柄入れ替え時に比べて22%増加の1兆6,000億米ドルとなりました。

インデックスへの新規銘柄の組入れ数で上位10位に入った国には、香港(90)、インド(89)、オーストラリア(74)、台湾(66)、日本(64)、中国(57)、英国(51)、韓国(44)が含まれています。香港、台湾、中国を合わせたラッセル・グレイターチャイナ・インデックス(Russell Greater China Index)では、新たに213銘柄が採用されたこととなります。新規採用銘柄には、2010年第2四半期に上場した45銘柄の新規公開株が含まれ、前年の銘柄入れ替え時の14銘柄に比べて大幅に増加しました。上場した新規公開株のうち世界的に最も規模の大きい上位5社は、第一生命(日本)、JXホールディングス(日本)、NKSJホールディングス(日本)、Powszechny Zaklad Ubezpieczen(ポーランド)、Athabasca Oil Sands(カナダ)です。

世界の投資可能な株式市場全体の 98%をカバーするラッセル・グローバル株インデックスは多くのサブインデックスを持ち、新規銘柄が組み入れられると、その銘柄は自動的にいくつかのサブインデックスにも組み入れられます。例えば、中国の小型株に追加があると、その銘柄はラッセル新興国株インデックス、ラッセル・アジア太平洋株インデックス、ラッセル・グローバル小型株インデックスに同時に組み入れられるとともに、関連するバリュー株／グロース株のスタイル・インデックスにも同時に組み入れられます。

ラッセル・グローバル株インデックスの構成銘柄を、国別に時価総額ベースで見ると、上位 20 位から脱落したのはシンガポールのみで、シンガポールの後にはオランダが入りました。銘柄入れ替え後の国別構成比で最も大きな割合を占めたのは米国(43.8%)で、その後に日本(8.5%)、英国(6.9%)、カナダ(4.5%)、フランス(3.5%)と続きます。

今回の銘柄入れ替えの結果、アルゼンチン、ブルガリア、リトアニア、スリランカの4カ国が同インデックスから姿を消しました。また、前年の銘柄入れ替え時に構成銘柄国から外れたラトビア、パキスタン、スロバキア、ウクライナおよびベトナムの5カ国から、今年、再度新規に採用された銘柄はありませんでした。

銘柄入れ替え後のセクター別構成比で最も大きな割合を占めたのは、「金融サービス」(22%)、「テクノロジー」(11.7%)、「生産者向け耐久財」(11.2%)、「一般消費財・サービス」(11.2%)、「エネルギー」(10.3%)となりました。新規に採用された 1,190 銘柄のうち、最も銘柄数が多かったのが「原材料・加工」の 199 銘柄で、僅差で「金融サービス」の 182 銘柄、「テクノロジー」の 179 銘柄が続きます。

「ラッセル・グローバル株インデックスの年次銘柄入れ替えは、株式ポートフォリオや退職プランのパフォーマンスをより適切に評価することを望んでいる投資家に対して、真に市場を代表する株式ベンチマークを提供するために必要不可欠なプロセスです」と小原沢は述べています。

年次銘柄入れ替え、浮動株修正時価総額、マルチファクター(多変量)でのスタイル分析、客観的で透明性の高いルールなど、革新的なラッセル・インデックスを利用する運用商品は引き続き増加しており、米国の機関投資家向け株式運用商品の 63.3%がラッセル・インデックスをベンチマークとして利用しています。ラッセル・インデックスをベンチマークとする対象運用資産の総額は約 3 兆 9,000 億米ドルに上ります(2009年12月末現在)。

以上

※当リリースは 2010 年 6 月 29 日にラッセル・インベストメント(米国)が発表した英文リリースをもとに作成したものです。

---

## ラッセル・インベストメントについて

ラッセル・インベストメントは、現在世界 46 カ国において、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに提供する資産運用、資産運用コンサルティング、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービスの他、株式インデックスの開発、売買執行管理など多岐にわたるサービスを提供しており、グループの運用資産総額は約 17 兆円※1 です。

ラッセルは、1984 年に Russell 1000®、Russell 2000®などをはじめとする米国株式インデックス・シリーズを開発しました。ラッセル米国株式インデックスは、投資可能な株式ユニバースを反映した初の浮動株修正済みインデックスで、現在米国機関投資家向けの運用商品の半分以上がラッセル米国株インデックスをベンチマークとしており、その資産総額は約 414 兆円※2 に上ります。

ラッセルは、その後も様々な規模やスタイル別インデックスを開発し 2007 年には世界の投資可能な株式市場の上位 98% をカバーしたラッセル・グローバル株インデックスを発表しました。

グループの創立は 1936 年。米国ワシントン州タコマを本拠地とし、米国最大手の個人生命保険会社であるノースウェスタン・ミューチュアル・ライフ・インシュアランス・カンパニーの子会社です。

日本においては 1986 年に東京オフィスを開設。現在、ラッセル・インベストメント株式会社を通じて各種サービスを提供しています。詳しくは <http://www.russell.com/jp/globalindex.asp> をご覧ください。

(※1 2010 年 3 月末現在、※2 2009 年 12 月末現在 グループ合算)

Copyright ©2010. Russell Investments. All rights reserved. ラッセル・インベストメントは世界中の拠点を通じて事業を展開しています。「ラッセル・インベストメントグループ」、「ラッセル・インベストメント」および「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニーおよびその子会社等の総称です。当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。当資料は、一般的な情報の提供を目的としており、特定の運用商品の推奨等の投資勧誘を目的としたものではありません。当社による事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。